

通算山行NO	NO・141S	報告者	山本正昭
年月日	'98年12月29日(火曜日)～	年12月31日(木曜日)	
山行名	'98 冬山合宿 塩見岳	天候	晴
山名	塩見岳 (西峰三角点 3,047m・東峰最高峰 3,052m)		

この山のセールスポイント **孤高の3,000mに登る**

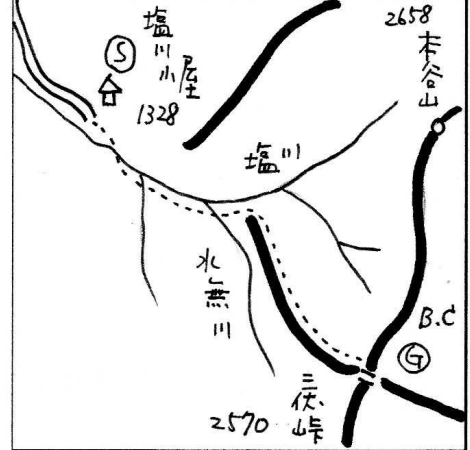
コース及びタイム 裾野3:55→御殿場4:20→諏訪湖SA 6:15 →松川IC 7:10→塩川8:00
登山開始8:50～塩川小屋9:45～三伏峠14:55

標高差	△S 塩川小屋 ~ T 三伏峠 = 1,242m	体力度	1・2・3・4・⑤・6
	▼T 1328 ~ G 2570 = m	技術度	1・2・3・④・5・6

走行距離 ~ km 展望度 1・2・3・4・⑤・6

参加者	CL	後藤 隆徳	51	三伏峠の登りはなかなかだ	加藤秀子	49	見事な氷爆登りたい!
		大根田元男	62	氷爆がきれいだった	山本正昭	49	気高を感じる塩見は最高
		高岡八千代	61	今年も冬山合宿に行けた	近藤孝子	57	冬山はやはり厳しい

一
日
目
いよいよ今年最後の山行、それも冬の3,000mの山。私の生まれは秋田なので冬はちょっと慣れていても、3,000mと聞いた時は、果たして登れるのか半信半疑でした。まして冬山はザックが重いので背負えるのか不安でした。早朝、神棚に手を合わせて3日間の成功を祈り家を出る。



市役所でCL、加藤、近藤、私と4人で出発。御殿場で大根田、高岡を乗せて一路松川ICへ。途中CLから加藤に運転交替。天気の良いせいか、南アルプスの冬山の景色が次々と視野に入り、気分が6人共盛り上がってくる。松川ICへ着く事3時間。気温-4度。長野は寒い筈だ。塩川までの林道の景色は最高だ。右手に水面が真っ青な小渋湖。左手は小さな滝が、寒さの為に水の流れが封じ込められ、一瞬その場だけ時の流れが止まった様に見える。その様な滝を幾つか見ながら塩川に到着する。早速荷物の点検。CLが『必要の無い荷物は車の中に入れる』(実はこの時、コッヘルを入れてきた?)との指示があり、荷物は6人で分担する。その後、ザックの重さを計り、CL24K・加藤21.5K・大根田20K・高岡19K・近藤18K・山本21Kで出発。途中、塩川小屋迄車が通れるのがわかったので加藤がザックを置いて車を取りに引き返す。

塩川小屋へ車を置き登山開始。暫く溪流沿いを登る。氷爆がきれいだ。すーと心が癒されるのを感じる。段々と登りが急になる。汗が凄い! 2時間程経った時、加藤が大きな声で『鍋がない! 鍋をわすれた!』と言う。一大事だ。それでもCLは足を休めないで登る。さすがだ。天気は快晴。道が凍ってきた所でアイゼンをはくが、近藤のアイゼンが壊れた。無風。南アルプスの山が次々と目の中に入ってくる。特に三伏峠付近の眺めは言葉に出ない程素晴らしい。今回登る塩見岳が眼前に見える。雄大である。登り始めて6時間三伏峠に着く。さすが2,600mである。非常に寒い。早速皆で手分けしてテントを張る。途中、CLと加藤が鍋の代わりに物を探しにでかけるが2人共ニコニコしながら戻ってきた。

神妙に安全登山 祈願する

何処からかひしゃくを探してきた。今回はひしゃくが鍋の代わりになり、これが最高に役立った。いよいよ食事。空腹と寒さの為、酒と鍋料理が非常に美味しく感じる。CLの山の話に皆聞き惚れて、時間の経つのも忘れる。近藤のアイゼンをCLが修理する。物入れの袋からペンチ・ネジ・ナットを取り出して、巧に修理してしまった。CLはこの他に強いステンレスの針金・ヘッドランプの球など、しっかり持っているのには驚いた。と同時にさすがと思った。

9時に全員眠りに就く。明日塩見岳に登る。天気の良い事を願う。



山名	塩見岳 (3,047m)		報告者	大根田元男		
この山のセールスポイント	南アルプス中央部の貫祿のある岩峰の山					
12月31日 (木)	起床2:30/4:15 ~本谷山5:34~塩見新道分岐7:30~塩見小屋7:50~塩見岳					
コース及びタイム	8:40/8:50 ~塩見小屋9:15/9:25 本谷山11:10 ~ B・C 12:14					
(小雪~曇り)	△S 2,560	~T 3,047 = 447 m	体力度	1・2・3・④・5・6		
標高差	▼T	~G 累積標高差 670 m	技術度	1・2・3・④・5・6		
			展望度	1・2・3・4・5・⑥		
参加者	後藤 隆徳	51	朝はとにかく眠かった	山本正昭	49	3000m の山最高!
	大根田元男	62	頂上に立つ事ができた	近藤孝子	57	冬の塩見に登って最高
	高岡八千代	61	今年も雪だった	加藤秀子	49	塩見の直下は最高

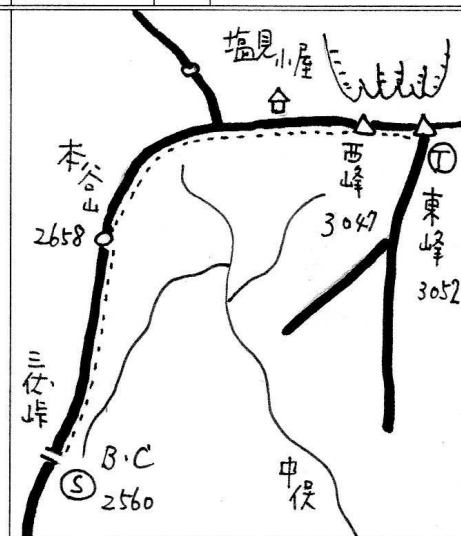
2
日
目

夜中から粉雪が降り注いでいたようで、朝起きて外を見ると新たに少し積雪していた。出発迄には少し時間もあり雪が止んでくれるのではないかと、淡い期待を持ったが降りやむ事はなかった。冬支度の完全装備、サブザックを背負い塩見岳を目指して早朝より行動する。コースは歩かれていて、経路からそれる心配もなく安心して歩ける。ヘッドランプに照らし出され近景の樹氷は幻想的で綺麗に見える。

三伏山、本谷山の登り下りは、それ程傾斜はきつくないが帰路の登り返しが思いやられそうだ。暗くて周囲の状況が分からず、早く夜明けになってくれればと思いながら歩き続ける。少しずつ明るくなってきた為、快調な早いペースになる。コメツガ、シラベの樹林帯の長い平坦な歩きから急傾斜になり、上がりきると植生も少し変わってくる。

塩見新道分岐の標識のある所に出る。新道の方は歩いている形跡はない。最初の登山計画では、新道から登る予定であったので経路変更になって良かった。ラッセル歩きで苦労するところだった。粉雪も止み、分岐を過ぎた頃から視界も少し開けて、塩見岳が時々姿を現す。雪と黒々とした露岩とがマッチしている迫力ある山容が素晴らしい。這松帯の急登はきつく一歩、又一歩とゆっくり歩きで登り切った少し上の左側凹地に塩見小屋があり3名程やすんでいた。休憩をとりたい気持ちであったがCLが休みを入れないので後を追跡して行くのみ。這松帯と岩礫帯の道を右に巻いて行く。

塩見岳直下の大きい岩場。ルートは岩壁の下に伸びていた。右下は急な雪壁で落ちればアウト。ここを登るならザイルが必要になる。CLはここで終わりにしようかと判断した。此処まで来たのだから頂上に登ったのと同じだと、自分に言い聞かせながら休んでいると、いつの間にかCLが左上の岩稜を偵察に行き、登って来るように合図を送った。



バンドを斜上し、大きな岩の間を乗り越え塩見岳西峰に立つ。視界は悪く直ぐ近くの東峰の岩塊がガスの上に浮かんで見えるのみ。南斜面は相当下まで見通せた。西峰頂上には標識はなかったので東峰にはあるのではないか。すこし登ると東峰に着く。残念ながら祠も標識もない。後日塩見小屋主人に聞いたら確かに何も無いとの返事だった。今日、塩見岳に登った一番は我々だった。下りは登ってきた時より慎重に岩の上を越していく。少し下った所で登って来た2人組に出会う。CLが立ち止まり話を聞くと福岡の労山のピナクル山の会の方との事。CLは思わず堅い握手。一人は55歳でCLにまだまだ若いとハッパをかける。健闘を誓い別れる。

塩見小屋に着き一休み。帰路になった為か、ゆとりも出てきたようでジョークも出るようになる。吐く息で皆の帽子は霜が降りたように白くなっており、髪の毛、眉毛が樹氷みたいな太い白髪のようにオトギ話に出て来る浦島太郎を思い出させる。行動食を食べようとするが、冷たいのと固いので食欲があまりわからない。パン・干し柿は食べられた。水分を含む果物等は凍ってしまい食べたくなかった。三伏峠で一緒にテント泊していたグループが登って来るのに出会う。同じ場所にテント泊しているのに出発時間の遅早で、此れ程時間帯の差が出てくるとは・・・。早く登頂してきて良かった。常の早立ち早着の習慣の有難さかな？

ダケカンバ等々につく綺麗な樹氷帯を通過するが、ゆっくり鑑賞する余裕もない。傾斜のゆるやかになった所でアイゼンを外してから未だ長い樹林帯歩きが続く。本谷山への登山になり、疲れもあり足がだるくなってきた。早くテント場に帰りゆっくり休みたいと思いながら黙々と歩く。本谷山頂上は同じような高さの所の続きのようで、なかなか頂きに着かなかった。三伏山頂上はカヤトの草原のようで広範囲に樹木がなく展望は良さそうである。曇っており周囲を見る事ができなかったのは残念であった。テント場に到着しホッと一安心。早々に身の整理をしてテント内で一休みする。

自然の記述 ①塩見岳への経路、思ったより雪が少なかった。②積雪は未だ粉雪状態で水を作る雪を集めるのに粉状になってしまう。③帰幕するとテントのポリタンが凍っていた。④夜は-20度と冷えた。⑤三伏峠のトイレは使用できる。⑥近藤さんのシュラフ袋は圧縮バンドがあり、羽毛シュラフが半分になる優れモノ。



山名	三伏峠～塩川小屋駐車場			報告者	加藤 秀子	
12月31日(木)	起床 5:00/7:25～登山口			9:00 ～塩川小屋駐車場 9:31/9:55 ⇨		
コース及びタイム	白河荘10:35/14:20 ⇨松川IC15:05 ⇨双葉SA(休憩)⇨裾野着19:20					
参加者	後藤 隆徳	51	塩見岳は私の原点の山	山本正昭	49	冬山に魅せられた
	大根田元男	62	まだまだ歩ける!	近藤孝子	57	歩き遂げた。満足
	高岡八千代	61	氷爆が素晴らしい!	加藤秀子	49	年末にふさわしい山行だった
第3日目	ブルッと身震いする程の冷気で目が覚めた。寒い! 未だ深夜の2時だ。背中にあてがった2ヶのホッカイロが、仰向けになって寝ていると、熱が雪に吸収されてしまうのか何も役に立たない。ザックの中の化粧水も凍ってしまう程の冷たく長い夜がやっと明け、'98年最後の朝を迎えた。			地図は29日の記録を参照		
目	『お早うございま～す』元気な声がテントの中で飛び交う。CLが手早く沸かしてくれた湯がシュンシュンと湯気をたて、テント内はたちまち暖かくなった。今日は冬山合宿恒例のお雑煮である。高岡家の餅が杓(しやく)のなかでグツグツ煮えた。皆、一斉に箸を出すという間に終わってしまう。とにかく器が小さいので食べる分が間に合わないのだ。初日、鍋を忘れた事に途中で気がつき、取りに引き返すと言う私に、忘れたのは自分が悪かった。皆には申し訳ないがサバイバルで行こう。とCLが必死で探した杓が私達の食を繋いでくれた。3日間お世話になった杓(しやく)をCL・近藤・高岡・加藤で丁寧に磨き込み、借りた時以上にピカピカにして感謝の意を表して元の位置に返した。このあってはならないアクシデントは又、皆の気持ちを一つにしてくれた様な気がするが、この一件は食料担当の加藤が反省すべきである。					
	賑やかな朝食がすみ、テント撤収も素早く、記念写真を撮ってから下山しようという事で三伏峠小屋の正面にまわる。と『後藤さんじゃないですか』と道行く2人組の登山者から声が掛かった。何と《あさぎりの齊藤さんと桜井さん》である。『何だ。何だ。何時こっちへ?知ってたら昨夜交流できたのに』とヤアヤア肩を叩き合いながら、偶然の出会いが嬉しい。一緒に記念写真におさまり、別れを惜しみながら下山を開始。					
	帰りは往路を下る。樹林帯の雪道をアイゼンをキシキシきしませて快適だ。右手の林の隙間から昨日歩いた本谷山までの尾根が長々と見え隠れしている。昨日の長く厳しい行程に昔に思いを馳せたCLが、懐かしそうにその時の話をしてくれた。今から22年前、1976年・CL29歳、バリバリの現役の頃である。12月28日電車を乗り継いで伊那北迄入り、戸台・北沢峠～仙丈岳・三峰岳(あぶ)・塩見岳～本谷山へ縦走し1月1日三伏峠から鹿塩へ下山。昔は車が無かったので、何処へ行くにも電車・バスの利用で登山口に到着が容易でなかった。日数はかかる、荷はその分重い。ハードな行程をよくやったよなア～。と遠い目をして語る。又、三伏峠から下山する途中で三島労山のメンバーと出会い、鹿塩でバス待ちの間、路上で1月1日の宴会。この出会いが切っ掛けで労山に入会。その後会長を					





何期も勤め5年前独立して、現在の裾野レイホーを創立。この出合のお蔭で情熱的な充実した人生を味わえた。と何時もは厳しい目が暫し和んだ。そんなCLの話を聞きながら、途中の見事な氷爆に感嘆の声をあげ、いつの間にか水無川出合い迄1時間とレイホーの下りは早い。今回は初めて無線を一回も使わなかった。初参加の山本は勿論、近藤が18Kの荷を背負ってピッチャリ後をついてきた。足並みが揃っていて使う必要も無かったのだ。厳しい山行にこういう結果は嬉しいねと話ながら、丸木橋を渡り吊り橋を渡ると塩川小屋の駐車場に着いた。

『お疲れさま!』CLの握手で今回の山行も無事に終わった。2時間の歩きじゃ物足りな〜い?なんて声も出るくらい、どの顔も未だ余裕綽々だ。山行が終われば次は温泉とばかり直ぐに出発。だが31日の事で甘くはなかった。当てにしていた途中の温泉宿3軒に寄ったが、何処も休館。最後の宿で情報を得、電話で確認。やっと探し当てた所は、秋葉街道(江戸時代に諏訪から遠州の秋葉神社に参詣する信仰の道・又物資輸送の塩の道)沿いにある大鹿村の白河屋だ。大鹿村では毎年、5月3日と10月の第三日曜日、230年の昔から語り継がれた、村オリジナルの手作り歌舞伎が演じられるそうだ。そんな文化と伝統がある村とは思えない今時な感じだったが・・・。

『お待ちしていました』ニコニコと迎えられその儘お風呂に直行。ザンプと湯船に飛び込み思いっきり手足を伸ばす。素通しの窓ガラスからは冬の陽射しがサンサンと降り注ぎ長閑だ。首までどっぷり湯に浸かり顔を閉じると塩見岳が顔に浮かんでくる。思えば冬山合宿の南アルプス3年計画は一年目仙丈岳と甲斐駒、2年目聖岳〜茶臼岳そして3年目の今年は塩見岳と、3000m級の山をこなしてきた。仙丈の頂上直下のナイフリッジには手足の末端迄緊張し、茶臼では深いラッセルに米つきバツタの如く突進し、果ては匍匐前進で雪まみれ、塩見では激しい突風に息をするにも苦労した。山行が厳しいものであればある程思い出深く、又やり遂げたという満足感・充実感は何物にもかえがたい。この充実感を山は教えてくれた。山をやって良かったと、湯船に浸かりながらしみじみと感無量を味わう。今度は未だハッキリとはしていないが、できたら5年計画で北アルプスをやってみたいとCLが言っていた。北アルプス・・・白馬・鹿島槍・剣・立山・穂高等つらつら並んでいる。行けるだろうか。胸がワクワク高鳴る。

無色透明の滑らかな湯が、身体にホカホカと温まり山行の疲れがサッパリと消えた。全員揃って乾杯。『うまい!』ビールのホップが五臓六腑にジワジワと染み渡る。鹿の刺し身に舌鼓みを打ち、山行の話が尽きる事なく12時迄が2時間以上も延長。来年の冬山合宿に又参加との全員一致に嬉しく、もう一度乾杯をして大鹿村を後にした。

車は加藤の運転。初め賑やかだった後部席も、松川ICに入る頃には眠ったのか静かになった。外はチラホラ雪が舞っている。高速道路は流れがよく時速100Kをキープ。中央高速から河口湖道路に入った途端にパトカーが目立ち、今年も暴走族の取り締まりが厳しい。料金所の周りの派手な車と、パトカーのチャカチャカに大晦日を実感しつつ到着。『皆のお蔭で今年もいい山行ができた』というCLに全員で心から感謝をする。本当に有り難うございました。

※下山後の8日塩川岳方面行方不明者の向い合所が長野県警からあった。
てっまりタメと思いきや、16日に無事下山でオドロいた。